

## 第208回（令和4年11月27日施行）

### 1 級商業簿記・会計学

#### 第1問

本問の問題文は、『企業会計原則』の「第一 一般原則」、『企業会計原則注解』の【注3】からの一部抜粋である。1. では一般原則のうち継続性の原則についての理解を問うている。2. では継続性の原則の必要性および注記事項についての理解を問うている。

#### 第2問

##### 1. 支店分散計算制度

支店相互間の商品売買取引について、その内容を支店の帳簿のみに記録し、本店の帳簿には一切記録しない支店分散計算制度の仕訳を問うている。

##### 2. 資産除去債務の計上

建物の取得時に当該建物の取得に付随して不可避免的に生じる除去サービスの債務を負債（資産除去債務）として計上するとともに、取得原価に対応する除去費用を含める仕訳を問うている。除去費用は割引現在価値で計上することに留意する。

##### 3. 新株式申込証拠金

増資に際して払込期日における新株式申込証拠金の資本金への振替えの仕訳を問うている。併せて拘束されていた別段預金から当座預金への振替えの仕訳も必要となる。

資本金組入額は会社法に定められた最低額との指示があるため、払込金額¥36,000,000の1/2である¥18,000,000となり、残額¥18,000,000は資本準備金として処理する。

##### 4. 償却原価法による評価

満期保有目的債券の償却原価法による評価の仕訳を問うている。償却原価法（定額法）とは、取得原価と額面金額との差額を償還期に至るまで均等額を取得価額に加算する方法であるから、当該差額¥400,000（＝10,000,000－9,600,000）を償還期限5年で割った¥80,000を満期保有目的債券勘定の借方に計上するとともに、有価証券利息（収益）も計上する。

##### 5. クレジット売掛金の計上

商品をクレジット払いの条件で販売し、代金をクレジット売掛金で受け取る際の仕訳を問うている。税抜方式を採用しているため、売上勘定には消費税（10%）を含めないように留意する。また、販売店はクレジット会社に対して手数料（本問では税込販売価額の2%）が発生するが、当該手数料が差し引かれて入金される。

##### 6. 外貨建輸入取引

手付金支払済みの外貨建輸入取引の仕訳を問うている。輸入した商品の取得原価 \$ 50,000 は、手付金 \$ 12,000 と買掛金 \$ 38,000 で構成されることに留意する。

### 第3問

本問は財務諸表の分析の中でも基本的なものについて問うている。(1) 流動比率と (2) 当座比率は、企業の短期的支払能力を分析する際に用いる安全性分析の経営指標である。当座比率は流動比率と同様に、流動負債の返済に充てられる資産をどれだけ持っているかを表わすが、当座比率を求めるときの当座資産には「棚卸資産」を含めない。(3) ROA (総資産利益率: Return On Assets) とは、総資産に対してどれだけ利益が生み出されたのかを示すもので、これまで事業に投資した資産が、効率よく収益に貢献できているかを測るための指標である。(4) ROE (自己資本利益率: Return On Equity) は、企業の収益率を知る財務指標の一つで、投資に値するかを判断する際に重要な項目である。

### 第4問

本問は琵琶株式会社が浜名株式会社を吸収合併し、存続会社である琵琶株式会社の合併後貸借対照表を作成する問題である。吸収合併の手続は、琵琶株式会社が浜名株式会社の資産・負債を時価で買い取り、対価は琵琶株式会社の新株式を交付すること(パーチェス法)で完了する。

まず資産と負債の時価による受入れを行うと、諸資産 895,000 千円と諸負債 632,000 千円であるから、純額として 263,000 千円(=895,000-632,000)の純資産を買収したことになる。これに対して株式 264,000 千円(=8×33,000 株)と現金 15,000 千円の計 279,000 千円を支払うことになるので、多く支払った 16,000 千円(=279,000-263,000)は「のれん」として処理する。資本金の計上額は合併契約で決まることであり、本問では 200,000 千円を資本金とする指示がある。

### 第5問

本問は、主として決算整理の処理及び財務諸表の作成能力を問うている。【問1】では、貸借対照表における負債及び純資産の部から一部の科目の金額を問うている。「繰越利益剰余金」の金額は、【問3】の損益計算書を完成してから求める。【問2】では、貸借対照表の資産の部の作成を問うている。最終的には負債及び純資産の部も完成させ、資産合計と負債・純資産合計が一致することを確認したほうがよい。【問3】では、損益計算書の作成を問うている。決算整理前残高試算表の科目・金額を決算整理仕訳にしたがって修正し、あとはフォーマットに沿って、貸借対照表と損益計算書を完成させる。